

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護総合実習Ⅱ(地域支援)	NSP44_007	必修	2	4	前期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
須田 由紀 他	305	Yuki.Suda	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	看護は、人々の生活の様々な場面で展開され、発達段階や対象者を取り巻く環境によっても看護ケアは工夫が求められる。そこで、地域の中で暮らす家族の健康を包括的に支援する看護職の役割を理解し、看護の対象となる人々が、自分らしく生活できるように多職種と連携を図りながら看護の力で何ができるか、学生自らの力でこれまでの学びや知識を使って課題解決をするための支援過程を経験し、今後も継続した看護の探求への姿勢を獲得していくことを目指す。				
学習上の助言	これまでの学習や実習から自己の看護を振り返り、現時点で課題を明確にしておくこと。				
教科書	必要に応じて適宜紹介する。				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	これまでの学習や実習から自己の看護を振り返り、「その人らしさを大切にした看護」を実践する上で大事にしていることを根拠と併せ述べられる。		HSU (3)、NS (1) ~ (4)		
②	地域の特性や対象者(本人および家族)の暮らしに合わせ、多職種が連携を図りながら展開される地域支援活動の特徴を理解できる。		NS (3)		
③	看護の対象者(本人および家族)が暮らす地域において、求められる看護の役割と機能について理解できる。		NS (2) ~ (4)		
④	看護の対象者(本人および家族)が暮らす地域において、多職種と連携を図りながら問題解決に向けた支援を展開できる。		HSU (4)、NS (1) ~ (4)		
⑤	専門職業人として、生涯学び続けることの必要性を理解し、将来への意欲を持つことができる。		NS (5)		
授 業 計 画					
1. 実習時期と期間 4年次前期 2週間					
2. 実習施設 富士吉田市役所、富士河口湖町役場、鳴沢村役場、忍野村役場(忍野村保健福祉センター)、西桂町役場(いきいき健康福祉センター)、都留市役所(いきいきプラザ都留)					
3. 実習方法					
1) 施設実習(役場、保健センターなど地域保健活動の場)					
(1) 地域支援活動について説明を受ける(オリエンテーション)。					
(2) 母子保健事業へ参加する。					
(3) 介護予防事業へ参加する。					
(4) 看護実践者・事業参加者との意見交換を行う。					
2) 学内演習					
(1) 対象者・家族に対する対話実践技法を学ぶ。					
(2) 地域支援における看護の役割について検討する。					
①施設実習の共有を行う。					
②ライフステージにおける地域支援のニーズを把握し健康課題を考える。					
(3) 地域で暮らす家族を対象とした看護を展開する。					
①事例をもとに家族全体を支援する看護を検討する。					
②ロールプレイなどを用いた発表を行う。					
3) 日々の学びを実習記録にまとめる					
(1) 事例演習や日々の学びを記録にまとめる中で、地域支援の特性を理解し、地域における看護活動の特性を考察していく。					
(2) 実習終了時にはテーマに沿って自分の考えをレポートにまとめる。					

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

学習課題・学習時間(時間)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習: 地域支援活動への参加に向けて、事前学習を丁寧に行い、実践に臨む。</li> <li>実習記録・レポート課題: 指示された方法で自らの考えをまとめる。</li> <li>疑問点はその場で質問し解決できるように努めるとともに、事前の自主学習においても調べる習慣を持つ。</li> </ul>							
必要時間: 10時間							
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	50	30	10	10	100
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	20	0	5	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	10	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	10	0	10	20
	問題を発見・解決する力	0	10	0	5	0	15
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
レポート	①	✓	「本日の実習記録」において、日々の実習目標を立案し、教員の確認を受ける。さらに実習の学びをまとめ、指示された期日に提出する。また、実習終了時には「実習のまとめレポート」を記載し指示された方法・期日に提出する。なお、知識・思考・推論・創造する力を総合的に評価する。				「本日の実習記録」をもとに、学生の理解度を確認し、口頭もしくはコメントにてフィードバックをする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
成果発表	①	✓	ロールプレイなどの準備・発表、カンファレンスの実施を通し、取り組みの姿勢から評価する。				発表・カンファレンス後に講評を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①	✓	学習した内容の資料を整理し、指示された方法に従い実習記録として提出する。				内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
その他	①	✓	学生が到達すべき実習目標①~⑤の到達度および、実習に臨む姿勢について教員により総合的に評価する。				学生の自己評価をもとに、学生自身の課題が明確になるように教員と面接を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	望月宗一郎、森川三郎、飯島玲奈、山本富士子、河西美生、河窪くみこ、小林萌子						
教 員 の 実 務 経 験	担当する教員は、各領域の特色に応じた病院における看護師や助産師、保健所・市町村における行政保健師の経験を有する。						
実践的授業の内容	看護師や助産師、保健師としての経験をもとに、人々の暮らしに寄り添った看護に必要とされる知識・支援技術の習得を目指し、学習を支援する。						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助: 石原杏夏、小島佳奈</li> <li>感染予防行動を徹底するとともに、自身の体調管理を心がけて実習に臨むこと。</li> <li>実習施設では、実習指導者の指示に従って主体的に行動すること。</li> <li>施設実習・学内演習での体験が限られているため、施設実習・学内演習(小児・母性・精神・地域)を1日でも欠席すると再実習の対象となる。</li> </ul>						